



◆ 会長挨拶

会長 市川 勝茂



皆様、明けましておめでとうございます。山梨県中小企業診断士協会会長の市川です。平素は当協会の研究会活動や諸事業にご参加頂き、誠にありがとうございます。

2024年は辰年ですが、本来の干支は十干(じつかん)と十二支(じゅうにし)を組み合わせた60種類あり、2024年の正式な干支は、十干の「甲(きのえ)」と十二支の組み合わせの「甲辰(きのえたつ)」になります。甲は、真っすぐ堂々とそそり立つ大樹を表すと言われており、辰(龍)は、水や海の神として祀られており、大自然の躍動を象徴すると言われていいます。今年、山梨県の中小企業が、大樹として、躍動されることを祈念します。

最近の社会情勢では新型コロナの影響も弱まり、山梨にもインバウンド客を始め多くの観光客が戻ってきました。一方、コロナ禍でホテルや飲食店などの従業員が辞め、コロナが弱まった今でも人材不足が続いており、お客様が来られても対応できない所

も多くあります。人材不足の問題を解決することは簡単ではありませんが、デジタル技術を活用して生産性を向上させ、少ない人数でも対応できる体制を作っている飲食店やホテル・旅館もあります。これらは付加価値を生まない事務作業等を効率化し、付加価値が高い顧客対応へ人員をシフトすることで生産性を向上させています。いわゆるDX化という取り組みですが、単に作業を効率化するだけではなく、自社の強みに経営資源を集中させるという戦略です。これから日本は少子高齢化が進み、労働力人口も減少するため、ますます人材不足は深刻になるでしょう。昨年、当協会ではDX研究会を設置し、これらの動きに応える会員資質の向上に努めています。こうした中では、AIを含むデジタル技術を上手く活用し、より付加価値が高い業務に集中できる企業、つまり小さなエネルギーで躍動できる企業が生き残っていくでしょう。我々診断士も、このような企業をしっかりと支援していきましょう。本年も、どうぞよろしく願い申し上げます。

甲州商人口伝

戦前戦後に活躍しました、甲州商人はこんな風に考え、高い(パイ)をしておりました。現代に生きる部分もあるでしょうか。

「にっばち」

売れ筋商品についての口伝です。
 「二割の商品が八割の売上を作る」と考えていました。
 ですから扱いたい商品の幹である二割の商品を大変大切にしていました。
 イギリスの2割の国民が8割の富を占めることを発見した「パレートの法則」と内容が類似しているのが不思議です。

「2Aと8Aが
七五三のことだ」
.....

◆副会長挨拶

副会長 斉藤 竜

～ 資産の有効活用策を模索中～



まずは、元日の能登半島地震において、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

あらためて世界有数の地震国に住んでいることを再認識させられ、我が家でも様々な備えの再点検を実施しました。折しも昨年は「事業継続力強化計画」の策定促進に向け山梨県が無料セミナーの実施や策定支援金を用意するなどの取り組みが行われ、多くの企業が想定や備えの重要性を認識したのではないかと思います。「事業継続力強化計画」は非常に取り組みやすい内容に整理されており、リスクを知ること、不備を知ること重点が置かれていますので、まだ取り組まれている支援先等がありましたら是非策定を推奨いただき、支援に当たっていただきたいと思っております。

さて、後段は問題提起をしたいと考えています。「当協会の潤沢な流動資産をどう活用するのか」です。どの程度の額となっているのかは総会資料をご確認いただくとして、当協会の目的は定款によれば「協会員相互の連携を緊密にし、会員の指導及び資質の向上に努めるとともに、中小企業診断制度の普及と推進を図り、もって中小企業の振興と国民経済の健全な発展に寄与することを目的」としています。第4条(事業)では、このために様々な事業を行えることとなっていますが、活用できていないままに資産を積み上げている状況です。

活用策の一つが現在推進している「HP更新」ですが、まだまだある筈です。自戒を込めて言えば、マネジメントのプロでありながら「目的未達の中で、資産の有効活用が出来ていない」のは本当に由々しき問題です。

◆副会長挨拶

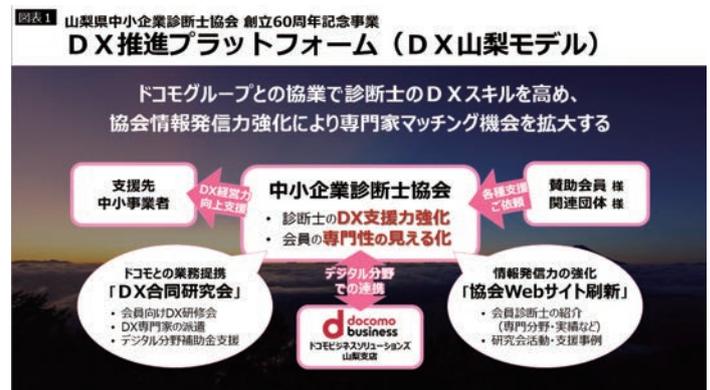
副会長 仲西 哲志

「DX推進プラットフォーム」、はじめます



コロナ感染症の5類引下げから半年が経ち、県内のお店にも活気が戻りつつあります。当協会でも2023年11月9日、4年ぶりの集合形式イベントとして「診断士の日2023および情報交換会」を開催することができ、協会会員、賛助会員を合わせて30名以上にご参加いただきました。

そして、同イベントのオープニングにて、山梨県中小企業診断士協会創立60周年記念事業「DX推進プラットフォーム」を発表しました。DX推進プラットフォームは「協会Webサイト刷新」と「DX合同研究会」の2つの事業を柱としています。



〈協会Webサイト刷新〉

賛助会員様からの専門家派遣依頼への対応や中小経営相談の当協会会員とのマッチングの最適化を目的に、当協会Webサイトのリニューアルを行い、会員診断士の専門分野・実績の紹介や研究会活動・支援事例の掲載をしていきます。

〈DX合同研究会〉

協会会員DX専門家の養成・派遣を目的としていますが、DX分野ではデジタル技術の革新が目覚ましく、診断士個々の取り組みだけではキャッチアップが困難になってきました。そこで、企業との協業による合同研究会を発足することとし、まずは、NTTドコ

モ山梨支店グループとの連携を進めます。

以上、創立60周年記念事業「DX推進プラットフォーム」を通じて、協会会員のスキルアップと専門分野の見える化を図り、中小経営者様、賛助会員様の期待に応えてまいります。

◆理論政策更新研修報告

鈴木 信貴

会場：総合市民会館

研修テーマ：

①新しい中小企業施策について

②中小企業の伴走型支援

今回の理論政策更新研修では、第1部で新しい中小企業施策の紹介、第2部では七田総合研究所株式会社の七田亘先生を講師に迎え、経営力再構築伴走支援の実践的なモデルについて学びました。

第1部の中小企業施策について、まず国の「令和5年度当初予算」及び「令和4年度補



正予算」についてご説明頂きました。事業再構築、コロナ関連融資など、主に中小企業庁から出されている補助金や融資制度について理解を深めることが出来ました。続いて、県内製造業の特徴について理解を深めた後、県民の生活基盤を強く安全なものとする「ふるさと強靱化」に関する支援、県を国の内外に開くことで富を呼び込む「『開の国』づくり」に関する支援についてご紹介頂きました。最後にやまなし産業支援機構の実施する「水素・燃料電池関連産業参入促進事業」や「山梨未来ファンド事業」等、県内中小企業の成長に繋がる支援策について情報収集することが出来ました。

第2部では、経営力再構築伴走支援について、七田亘先生の講演が行われました。経営力再構築伴走支援とは、対話を通じて経営者が自ら課題を発

見できるよう導き、課題を解決する過程で生じる壁を乗り越え自走化できるよう促す支援の事です。不確実性



の時代において経営力そのものを問われる機会が増えていることから、経営支援も変革を迫られています。私たち支援者は、従来の課題解決型の支援から脱却し、経営力再構築型の支援へと移行することが求められているそうです。対話と傾聴で経営者の内発的動機付けを導き潜在力を引き出すため、対話力を磨く必要があるというお話が印象的でした。

今回の研修を通じて、中小企業に対する施策の理解を深め、新しい時代の伴走支援について深く学ぶことができました。今回学習したことを地元企業の持続可能な成長と競争力強化に繋げられるよう精進していきたいと思えます。



◆協会60周年記念事業のご紹介

山梨県中小企業診断士協会は、1963年(昭和38年)6月に山梨県の支援と指導のもと、任意団体「山梨県中小企業診断協会」としてその歴史の幕を開けました。以来、地域経済の発展と中小企業の成長を支えるための活動を続け、1974年(昭和49年)4月には社団法人中小企業診断士協会山梨県支部へと進化。2014年(平成26年)4月に現在の法人形態へと改組され、今日に至るまで、中小企業の支援に尽力してきました。

2023年には、協会設立60周年という記念すべき節目を迎えました。この長い歴史を振り返りつつ、今後も変わらぬ使命感を持って、中小企業の支援や協会のさらなる発展に努めてまいります。60周年を機に、中小企業の支援と協会の発展をさらに加速させるため、以下の3点の重点的な取り組みを実施しています。

① 診断士協会ホームページ 刷新プロジェクト

池田 哲郎

山梨県中小企業診断士協会は、60周年を迎えた節目に、県内の中小企業診断士の認知度向上を目指し、新たな取り組みを始動しました。その一環として、ホームページの刷新計画が進行中です。これまでもホームページは存在していましたが、今後はその発信力を一段と強化し、診断士のプロフィールや活動をより効果的に発信していくことを目指しています。

新しいホームページでは、診断士の専門分野ごとに検索機能を強化します。経営改善や生産管理、補助金申請など、さまざまな分野に精通した診断士を見つけることができます。また、各診断士のプロフィールや実績、得意分野などが詳細に掲載され、利用者は診断士のスキルや経歴を把握することができます。

この新しいホームページには、会員診断士にとっても多くのメリットがあります。まず、診断士は自身のプロフィールをホームページ上で紹介することができます。自己PRや実績を効果的にアピールすることができます。これにより、ビジネス機会の拡大や新規顧客の獲得につながるでしょう。

また、賛助会員や事業者の方にとっても、このホームページは貴重な情報源となります。診断士のスキルや経験、実績を把握することで、適切な診断士を選定する際の参考となるだけでなく、診断士との連

携やコラボレーションの機会を見つけることができます。これにより、地域のビジネス活動や経済活動の促進に貢献することが期待されます。

山梨県診断士協会は、これからも地域の発展と産業支援に向けて積極的に活動を展開していきます。新しいホームページを通じて、診断士の活躍がより多くの人々に知られ、地域経済の発展に寄与することを目指しています。

② 「中小企業診断士の日」 オフラインイベント開催

大輪 駿文

2023年11月9日、歴史あるホテル談露館にて「中小企業診断士の日」のイベントが開催されました。コロナ禍の影響で2020年からオンラインでの開催が続いていましたが、感染状況の改善を受け、4年ぶりに対面での集まりが実現しました。斉藤副会長による熱意あふれる開会の挨拶に始まり、イベントは以下の三部構成で進行されました。

(1) 山梨県診断士協会60周年記念事業の紹介

(2) 診断士の日2023イベント

「中小企業へのDX推進支援を考える」

(3) 情報交換会

第一部では、仲西副会長から山梨県中小企業診断士協会60周年記念事業としてDX推進プラットフォーム(DX山梨モデル)の説明が行われ、この新しい取り組みがどのように協会の活動と地域の中小企業支援に貢献するかということが紹介されました。NTTドコモグループと協力し、診断士のDXスキル向上と協会の情報発信力を強化することにより専門家のマッチング機会を拡大し、中小企業のデジタル化を支援することが目標です。この一環として、協会のウェブサイト进行全面刷新し、DXに関する合同研究会を開催する計画が発表されました。

第二部では、「中小企業へのDX推進支援を考える」というテーマのもと、中村昌幸理事のファシリテーションで診断士の日2023のメインイベントが展開

ラムなど、未経験者でも簡単にアプリを制作できることを、実体験をもって学ぶことができました。



DX関連のセミナーや研修は世の中に溢れかえっていますが、ここまで体験重視型のイベントはなかなかありません。参加者からも“実体験を経てイメージが具体的に変わった、身近に感じられるようになった”という声を多くいただきました。デジタルツールは、IT等の専門知識がなくても誰でもすぐに利用できます。また、利用するほどデータが蓄積され、そのデータを可視化する仕組みも搭載されているので、新たな気づきを得たり、仮説を導くことが容易となります。より多くの中小企業の経営者・従業員がデジタルツールを体験することで、“自分たちでもできる”、“自らつくり、変えていく”というジブングト化につながり、DXへ発展していくことが期待できます。

その一方で、講師からは次の話がありました。ベンダ企業は「手段」としてのデジタルツールは提供できるが、「目的」であるビジネスモデルの変革そのものを提供することは難しい、と。このDXの『目的』である「ビジネスモデルの変革」こそ、中小企業診断士の役割です。今後、診断士とベンダ企業が連携するDX合同研究会を通じて「目的：ビジネスモデルの変革」と「手段：デジタルツールの活用」の両輪で伴走支援ができるDX専門家の輩出を目指していきます。

◆ 食と農研究会の紹介

食と農研究会代表 池田 哲郎

最近、甲府駅周辺を歩いていると、魅力的な飲食店が増えていることに気づきました。これらの店舗が甲府という街を形成し、賑わいを生み出しています。飲食店を含む「食と農」は、多くの人々の生活に関わるため、地域の魅力に大きく貢献しています。山梨県には、飲食店、農産物、ワイナリーなど、「食と農」に関連する事業者が数多く存在します。これらは山梨県の重要な資産です。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、多くの食と農業に従事する事業者が影響を受けました。飲食店はもちろんのこと、日本で最も多い事業者数を誇る山梨県のワイナリーも、消費者の利用減少により経営に大きな影響を受けました。

しかしながら、このような外部環境の変化は、企業にビジネスモデルを変革する機会を提供します。多くの企業がコロナ禍で苦境に立たされながらも、顧客との関係性を変えるなど柔軟に対応しています。

食と農研究会では、この厳しい外部環境下で経営の舵を取る方法や、診断士としてどのように支援すべきかを探るため、「ウィズコロナ・アフターコロナにおけるワイナリーのビジネスモデル研究」を2023年のメインテーマとして、ワイナリーを訪問し、経営者の方からお話を伺いました。今年度も同様の活動を継続する予定です。

現在の研究会メンバーは12名であり、独立・企業内診断士から企業経営者、公的機関に所属する者まで幅広いメンバーが在籍しています。実際にワイナリーの立ち上げや販売・マーケティングに従事しているメンバーもいます。また、人的ネットワークの構築も目的の一つであり、直接交流できる機会を設けたいと考えています。ご興味のある方は、お気軽にご連絡ください。

研究会情報

研究会スケジュール：現在不定期

開催場所：山梨県立図書館交流ルーム
連絡先：iked@giraffe-c.com

◆ 観光研究会の紹介

観光研究会代表 岩崎 真朗

山梨県が発表した「令和4年山梨県観光入込客統計調査結果」によりますと、令和4年は、令和3年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、10月からは訪日外国人の入国規制緩和や、やまなしグリーン・ゾーン旅割（全国旅行支援）等の実施により、令和4年1月～12月の山梨県の観光客実人数は27,384千人（前年（18,378千人）比 149.0%）、日帰り客実人数 19,246千人（前年（13,271千人）比 145.0%）、宿泊客実人数8,138千人（前年（5,108千人）比 159.3%）という結果になりました。

観光消費額については、対前年比14%増の総額3,066億円となりました。

そのような中、観光研究会は、やまなし観光推進機構様との情報交換会、東京ビッグサイトで開催される「国際ホテル・レストランショー」の視察などを軸に研究活動を進めて行く方向です。

並行して、やまなし観光推進機構様との取り組みで専門家派遣や展示会への出店などにも対応して参ります。

研究会スケジュール：現在不定期

開催場所：当面は原則オンライン

連絡先：madmax19681128@gmail.com

◆ SDGs研究会の紹介

SDGs研究会代表 藤原 一正

SDGsは国連で定められた目標であり、各国で合意された国際的な方向性を示したものです。SDGs研究会では、政府のカーボンニュートラル政策やグリーン関連の施策等。環境政策に関連するテーマを扱い、持続可能な社会について情報共有を行います。

す。

SDGs研究会では昨年は外部講師を招いた講演会開催を行いました。昨年度は、公益財団法人キープ協会の鳥屋尾様に御講演いただき、SDGsについて最新の知見を共有いただきました。今年は昨年に引き続き環境政策を御研究されている山梨大学の中村准教授をお招きして講演をお願いいたしました。

(1)日時：12月7日(木)夕方

午後7時から8時半

(2)講師：山梨大学准教授 中村高志先生

現在の所属機関・部局：

山梨大学大学院 総合研究部 国際流域環境研究センター

researchmapまたはORCIDのID：

<https://researchmap.jp/tkcnmr>

(3)内容

○第1部

「山とまちをつなぐ地域共創 ～“やまなしウォーターbeing”の構想～」

“まち”における生産活動や私たちの生活は、供給される環境資源の消費によって成り立っています。我が国の場合、多くの資源は海外に頼るところが大きいですが、“水”については100%地域の水資源を活用しています。まずは「水」を中心に地域における水資源の生産と消費を考え、水循環を作り出すことで、「まち」で消費だけするという資源生産と消費の分断から、「資源を生み出し、活用できる」持続可能な社会について構想した“やまなしウォーターbeing”についてご紹介いたします。「水」から始まり、エネルギーや食の循環についても想像していける場となるよう意見交換をしたいと考えています。「水」を直接扱っていない業種の方も是非ご参加いただければ幸いです。

○第2部

中村先生を交えての最新トピックのディスカッション
参加者の意見交換 第1部を踏まえた質疑応答と、中小企業分野の環境政策について（特にグリーン

成長戦略などのものづくり補助金や事業再構築補助金の議論)

○趣旨:事業再構築やものづくりにもグリーン枠があり、今回はカーボンニュートラルやグリーン成長戦略などについて情報共有

○参加者数 7名

内容は多岐にわたりましたが、本件の環境問題について活発な意見交換ができました。中村先生の専門の水問題から持続可能なビジネスについて多様な観点からご意見をいただくことが出来まして有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。

連絡先 藤原一正 edelstein@r.sannet.ne.jp

◆ 創業研究会の紹介

創業研究会代表 中村 昌幸

山梨県中小企業診断士協会では、毎年5月に甲府商工会議所で開催される創業セミナーへ講師派遣を担わせて頂いており、セミナー企画及び講師登壇に対応しています。創業研究会では毎年の創業セミナー開催に向けた各種カリキュラムの研鑽を行う組織として、他団体の創業セミナーの事例研究や、創業支援取組みについての勉強会などを行って参りました。

私たちが提供している創業セミナーでは、受講者同士のネットワークづくりと、創業計画書づくりを融合するため、ワークショップ形式を取り入れたライブ感のある研修を提供しております。専門家からの講義提供と受講者同士の対話の場を組み合わせ、創業について学んだ知識を創業計画書に記入する演習、受講者同士の対話による学びの広がりのあるプログラム構成としています。お互いの情報交換も見える場によって受講者満足度の高いセミナーをお届けしています。

当研究会では、創業セミナーでの講師派遣への協力を活動の軸としつつ、さらに活動の幅を拡げてゆきたいと考えております。創業支援の取り組みは、資金調達から顧客開拓等の各プロセスで様々な支援提供があります。例えば、創業計画書を作成する前段階での起業の芽を育てるためのご支援への取り組みから、創業時の重要な課題となる販路開拓に役立つネットワーク構築へのご支援への取り組み、それに関連してビジネスマッチングイベントのご支援などが挙げられます。こうした取り組みにはマンパワーと更なる創業支援への情熱が必要となります。ご参加を頂ける会員の皆様、連携のご支援を頂ける皆さまのご連絡をお待ちしております。

中村昌幸 ma-nakamura@ra2.so-net.ne.jp

※ 編集後記 ※

山梨県中小企業診断士協会は、設立60周年を迎えるこの節目に、中小企業支援にさらなる熱意をもって取り組む決意を新たにしています。ご多忙の中、寄稿をいただいた先生方への深い感謝と共に、今後も継続的なご指導とご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

編集後記:大輪駿文

しんだん山梨編集:中村昌幸 大輪駿文